

ITCertMagic

ITCertMagic

HOME

ALL VENDORS

★ GUARANTEE

? FAQ

TESTIMONIALS

CART (0)



Try **PDF Demo** before you buy

28 Top Certifications

Apr

- ▶ HP CSE ▶ Avaya Specialist
- ▶ ACE InDesign ▶ LPIC Level1
- ▶ Apple Certified Pro ▶ VCP6-CMA
- ▶ JNCDA ▶ Aruba Certification ▶ CCA XP
- ▶ ICND1 ▶ RCSP ▶ GAQM LCP
- ▶ JNCDS-SEC ▶ Fireware Essentials
- ▶ Oracle Spatial 11g

28 Top Vendors

Apr

- ▶ ISM ▶ HRCI
- ▶ Palo Alto Networks ▶ NSCA
- ▶ SUN ▶ ISQI ▶ Huawei
- ▶ American College ▶ IIA ▶ ARM
- ▶ Pegasystems ▶ OMG ▶ Simens ▶ GRE
- ▶ HAAD ▶ PCI ▶ BBPSD ▶ SCO
- ▶ SugarCRM ▶ Logical Operations ▶ IIBA
- ▶ Altiris ▶ Alfresco ▶ AMA ▶ Informatca

What Client's Say

“ There are some less than 8 new questions, so this 70-695 dump is still mostly valid. Wrote the exams today and passed. ”

Timothy ★★★★★

<http://www.itcertmagic.com/>

Pass-Guaranteed Certification Exam Questions | Exam Dumps - ITCertMagic

Exam : **1Z0-067-JPN**

Title : Upgrade Oracle9i/10g/11g
OCA to Oracle Database
12c OCP

Vendor : Oracle

Version : DEMO

QUESTION NO: 1

データベースはARCHIVELOGモードで実行されており、フラッシュバックが有効です。表と表のパーティションをリカバリするためにRMANバックアップを使用する必要があるシナリオはどれですか？

最良の答えを選択する。

- A. DDL操作後に失われたデータをリカバリすると、表の構造が変更された
- B. ごみ箱にある削除されたテーブルを回復するとき
- C. 論理的に破損している表をリカバリするとき
- D. ある時点でテーブルを回復するとき
- E. テーブルのデータを、最も古い利用可能な元に戻すよりも新しい、所望の時点で回復するときに、実行される。

Answer: A

QUESTION NO: 2

RMANコマンドを発行します。

```
RMAN> BACKUP SECTION SIZE 300M TABLESPACE users;
```

コマンドの実行に関して正しい記述はどれですか？

最良の答えを選択する。

- A. バックアップは、USERS表領域がローカル管理されている場合にのみ成功します。
- B. RMANは多重化を使用してバックアップを実行します。
- C. 結果のバックアップセットには、300 MBを超えることのできないバックアップピースがあります。
- D. RMANは常にこのタイプのバックアップを並行して実行します。
- E. バックアップセットサイズは300 MBに制限されています。

Answer: C

QUESTION NO: 3

どのステートメントはOracle

Database12cにエンタープライズマネージャー (EM) エクスプレスについて真ですか。

- A. デフォルトでは、EMエクスプレスはデータベース作成後のデータベースのために利用可能です。
- B. EMエクスプレスが同じサーバ上で実行されている複数のデータベースを管理するために使用できます。
- C. EMエクスプレスインターフェースを使用することによって、プラグイン可能なデータベースの基本的な管理タスクを実行することができます。
- D. 作成を使用することによって、データベース・インスタンスを起動またはシャットダウンすることができません。EMエクスプレスを使用することによって、プラグイン可能なデータベースを構成します。
- E.

EMエクスプレスを使用することによって、プラグ可能なデータベースを作成し、構成することができます。

Answer: A

Explanation

EM Express is built inside the database.

Note:

Oracle Enterprise Manager Database Express (EM Express) is a web-based database management tool that is built inside the Oracle Database. It supports key performance management and basic database administration functions. From an architectural perspective, EM Express has no mid-tier or middleware components, ensuring that its overhead on the database server is negligible.

QUESTION NO: 4

プラグブルデータベース (PDB) の一時テーブルスペースに属する一時ファイルの損失または損傷について正しい記述はどれですか？

- A.PDBが閉じられ、PDBが開かれると一時ファイルが自動的に再作成されます。
- B.PDBは閉じられており、PDBレベルでのメディアリカバリが必要です。
- C.コンテナデータベース (CDB) が開かれるたびに、PDBは閉じず、一時ファイルが自動的に再作成されます。
- D.PDBは閉じず、CDBに定義されているデフォルトの一時テーブルスペースを使用して起動します。

Answer: C

Explanation

If a temp file belonging to a PDB temporary tablespace is lost or damaged, and the user issuing the statement uses it, an error during the execution of SQL statements that require that temporary space for sorting occurs. ...

The PDB can open with a missing temporary file. If any of the temporary files do not exist when the PDB is opened, they are automatically re-created. They are also automatically recreated at CDB startup.

QUESTION NO: 5

RDBMSインスタンスで実行されたクエリとその出力を調べます。

```
SQL> SELECT * FROM v$pwfile_users;
```

USERNAME	SYSDB	SYSOP	SYSAS	SYSBA	SYSDBG	SYSRM	CON_ID
SYS	TRUE	TRUE	FALSE	FALSE	FALSE	FALSE	0
C##B_ADMIN	FALSE	FALSE	FALSE	TRUE	FALSE	FALSE	0
C##C_ADMIN	FALSE	FALSE	FALSE	FALSE	TRUE	FALSE	0
C##A_ADMIN	FALSE	FALSE	FALSE	FALSE	FALSE	TRUE	0
C##D_ADMIN	FALSE	FALSE	TRUE	FALSE	FALSE	FALSE	0

出力の (SYS以外の) ユーザーについて正しい3つのステートメントはどれですか？
(3つ選択してください。)

A.C ##

D_ADMINユーザーは、自動ストレージ管理 (ASM) のバックアップおよびリカバリ操作を

実行できます

B.C ## C_ADMINユーザーは、Data Guard Brokerでデータガード操作を実行できます。

C.C ## A_ADMINユーザーはウォレット操作を実行できます

D.C ## B_ADMINユーザーは、RMANまたはSQL *

Plusを使用してすべてのバックアップおよびリカバリ操作を実行できます。

E.C ## B_ADMINユーザーは、Recovery

Managerのみを使用してすべてのバックアップおよびリカバリ操作を実行できます

Answer: A B D

QUESTION NO: 6

どの文がDBMS_NETWORK_ACL_ADMINパッケージの機能を記述していますか？

(該当するものをすべて選択してください)

A.

ロールは使用できませんが、ユーザーのアクセス権の設定を許可するために使用できます。

B. ユーザとロールのアクセス権設定を許可するために使用できます。

C. これは、アクセス権がユーザに利用可能な時間間隔を制御するために使用できます。

D.

データベース内の各ユーザーのアクセスを異なるホストコンピュータに選択的に制限するために使用できます。

E.

特定のホストコンピュータ内の異なるアプリケーションへのユーザーのアクセスを選択的に制限するために使用できます。

Answer: B C D

QUESTION NO: 7

どの4つの表領域タイプの名前を変更できますか？

4つを選択します。

A. the default permanent tablespace

B. the SYSTEM tablespace

C. a temporary tablespace

D. a read-only tablespace

E. an offline tablespace

F. an undo tablespace

Answer: A C D F

QUESTION NO: 8

データウェアハウスのワークロードをサポートし、ARCHIVELOGモードで実行されているデータベースを管理しています。日曜日のレベル0のバックアップと週の他のすべての日のレベル1の増分バックアップを実行するためにRMANを使用します。

メディア障害のため、データファイルの1つが破損し、現在のオンラインREDOログ・ファイルが失われます。

回復のために、どのアクションを実行しなければなりませんか。

A.

データファイルを復元し、回復データベースNOREDOコマンドを使用してそれを回復し、

データベースを開くためにRESETLOGSオプションを使用します。

B.

制御ファイルおよびすべてのデータファイルを復元し、回復データベースNOREDOコマンドを使用してそれらを回復し、データベースを開くためにRESETLOGSオプションを使用します。

C.

すべてのデータファイルを復元し、回復データベースコマンドを使用してそれらを回復し、データベースを開きます。

D.

すべてのデータファイルを復元し、回復データベースNOREDOコマンドを使用してそれらを回復し、データベースを開くためにRESETLOGSオプションを使用します。

Answer: B

Explanation

See Example 3-6 Recovering a NOARCHIVELOG Database STARTUP FORCE NOMOUNT; RESTORE CONTROLFILE; # restore control file from consistent backup ALTER DATABASE MOUNT; RESTORE DATABASE; # restore data files from consistent backup RECOVER DATABASE NOREDO; # specify NOREDO because online redo logs are lost ALTER DATABASE OPEN RESETLOGS; References:

<https://docs.oracle.com/database/121/RCMRF/rcmsynta2001.htm#RCMRF140>

QUESTION NO: 9

行アーカイブの管理が有効になっている時、どの2つのステートメントは真ですか。

A.

ORA_ARCHIVE_STATEcolumnの可視性は行アーカイブ視認性セッション・パラメータによって制御されます。

B.

ORA_ARCHIVE_STATEcolumnは行がもはやアクティブであると見なされないことを示すために、手動で更新され、または活動追跡の列を参照することができるプログラムによります。

C.

行アーカイブ視界のセッションパラメータはすべての行がデフォルトになります。

D.

クエリの選択リストで参照されている場合、ORA_ARCHIVE_STATEcolumnが表示されます。

E.

ORA_ARCHIVE_STATEcolumnはアクティビティの追跡の列に基づいて、データベースによって自動的に更新されます。

Answer: B D

QUESTION NO: 10

データベースがARCHIVELOGモードで実行されています。リカバリ・カタログなしでRMANを使用して、データベースのバックアップを取っています。メディア障害のため、データファイルとすべての制御ファイルのいずれかが失われます。

データベースを復旧するために手順を確認します:

1.RMAN回復制御ファイルコマンドを使用して制御ファイルを回復します。

2. データベースをマウントします。
 3. RMAN回復データベースコマンドを使用してデータファイルを回復します。
 4. RESETLOGSオプションでデータベースをオープンします。
 5. バックアップ制御ファイルのコマンドを使用するRMAN回復を使用して、データファイルを回復します。
 6. ノーマウント状態でデータベース・インスタンスを起動します。
 7. リカバリ・カタログを使用して、ターゲット・データベースに接続します。
 8. データベースを開きます。
 9. データファイルを復元します。
 10. データファイルを回復します。
- 正しい順序で必要な手順を識別してください。

- A. 7, 6, 1, 2, 3, 5, 4
- B. 7, 2, 1, 3, 5, 8
- C. 7, 6, 1, 2, 9, 10, 8
- D. 7, 6, 1, 2, 9, 10, 4

Answer: D

Explanation

"If all copies of the current control file are lost or damaged, then you must restore and mount a backup control file. You must then run the RECOVER command, even if no datafiles have been restored, and open the database with the RESETLOGS option."

QUESTION NO: 11

データベースを複製するコマンドを調べます。

```
RMAN> DUPLICATE TARGET DATABASE TO cdb
```

```
PLUGGABLE DATABASE pdb1, pdb5;
```

DUPLICATEコマンドについて真となるステートメントはどれですか？

A.

SPFILEは、プラグガブル・データベース (PDB) のデータ・ファイルとともにコピーされます。

B.

コンテナデータベース (CDB) 内のルートデータベースとシードデータベースも複製されます。

C. コマンドを実行する前に、pdb1とpd5のバックアップが存在している必要があります。

D.

duplicateコマンドは、まずバックアップを作成し、バックアップを使用してPDBを複製します。

E.

補助インスタンスは、初期化パラメータENABLE_PLUGGABLE_DATABASEをTRUEに設定して起動する必要があります。

Answer: B E

Explanation

Do backups of the source database exist? The principal advantage of active database duplication is that it does not require source database backups. Active duplication copies mounted or online database files over a network to the auxiliary instance. One disadvantage

of this technique is the negative performance effect on the network. Another disadvantage is that the source database is running processes required to transfer the files to the auxiliary host, thereby affecting the source database and production workload. If the source database backups exist, and if the effect on the network is unacceptable, then backup-based duplication may be a better option. You can copy backups to temporary storage and transfer them manually to the destination host. If duplication is made with a connection to the target or the recovery catalog, then the backup files on the destination host must have the same file specification as they had on the source host. Otherwise, this is not a requirement.

QUESTION NO: 12

FAST_START_MTTR_TARGETパラメータをゼロ以外の値に設定すると、どちらのステートメントが正しいですか？（2つを選択してください）

A.

LOG_CHECKPOINT_INTERVALパラメーターの値は、FAST_START_MTTR_TARGETパラメーターの値をオーバーライドします。

B. MTTR advisorは、その値がデフォルト値より大きい場合にのみ使用可能になります。

C. 自動チェックポイント調整が有効になっています。

D.

クラッシュ後にインスタンスをリカバリするのにかかる時間は、常にFAST_START_MTTR_TARGETパラメータに設定された値とまったく同じです。

Answer: A B

QUESTION NO: 13

UNIXベースOracle12cデータベースのマルチスレッド有効にするには、Oracleの所有者としてSQLPlusでコマンドを発行します:

```
CONNECT/AS SYSDBA
```

```
ALTER SYSTEMSETTHREADED__EXECUTION= TRUESCOPE=SPFILE;
```

```
SHUTDOWNIMMEDIATE
```

その後、インスタンスを再起動し、エラーを受けます:

```
STARTUP
```

```
ORA-01031:insufficientprivileges
```

なぜスタートアップ・ コマンドが表示されるエラーを返しますか。

A.

スレッドアーキテクチャはsql*plusから出てくる必要があり、起動コマンドを発行する前に、sysdbaとしてsql*plusによってと再接続するためです。

B.

スレッドアーキテクチャは起動コマンドを発行する前に、sql*plus内からsysdbaとして新しい接続を発行する必要があるためです。

C.

スレッドアーキテクチャは起動コマンドを発行する前に、パスワード・ ファイルを使用して認証を必要とするためです。

D.

スレッドアーキテクチャは起動コマンドを発行する前に、リスナーを経由してインスタンスに接続する必要があるためです。

E.

スレッドアーキテクチャは起動コマンドを発行する前に、リスナーを再起動する必要があるためです。

Answer: C

Explanation

The first pitfall is, when you try to configure your database for such use. You need a connection which is authenticated through the password file. Otherwise you will get an error similar to this.

References:

<https://petesdbablog.wordpress.com/2013/07/09/12c-new-feature-multi-process-multi-threaded-oracle/>

QUESTION NO: 14

次のコマンドを実行して、Recovery Managerで設定を構成します。

```
RMAN> CONFIGURE DEVICE TYPE sbt PARALLELISM 1;
```

```
RMAN> CONFIGURE DEFAULT DEVICE TYPE TO sbt;
```

```
RMAN> CONFIGURE DATAFILE BACKUP COPIES FOR DEVICE TYPE sbt TO 2;
```

```
RMAN> CONFIGURE ARCHIVELOG BACKUP COPIES FOR DEVICE TYPE sbt TO 2;
```

```
RMAN> CONFIGURE DATAFILE BACKUP COPIES FOR DEVICE TYPE DISK TO 2;
```

次に、次のコマンドを発行してバックアップを取得します。

```
RMAN> BACKUP DATABASE PLUS ARCHIVELOG;
```

これらのコマンドの実行については、どのステートメントが正しいですか？

最良の答えを選択する。

A.

データファイルとアーカイブログをメディアにバックアップし、各データファイルとアーカイブログの2つのコピーを作成します。

B.

各データファイルをディスクとメディアにそれぞれ2つ、アーカイブログを2つずつメディアにバックアップします。

C.

BACKUPコマンドでディスクのバックアップ先が指定されていないため、バックアップが終了します。

D.

データファイルとアーカイブログをバックアップし、各データファイルとアーカイブログのコピーをディスクとメディアに作成します。

Answer: B

QUESTION NO: 15

Oracle

11gデータベースをマルチテナントコンテナデータベース (CDB) にプラグブルデータベース (PDB) として追加するために使用できる2つの方法はどれですか？

A. DBMS_pdbパッケージを使用して、Oracle

11gデータベースを既存のCDBにPDBとしてプラグインします。

B. create database

...を使用して、pd3SeedからデータファイルをコピーすることでPDBを作成し、データポンプを使用してOracle

11gデータベースから新しく作成されたPDBにデータをロードします。

C.CDBでPDBを事前に作成し、データポンプを使用して、Oracle

11gデータベースの完全なデータベースエクスポートから新しく作成されたPDBにデータをロードします。

D.CDBでPDBを事前に作成し、network_linkおよびパラレルパラメーターとデータポンプインポートを使用して、Oracle

11gデータベースから新しく作成したPDBにデータをインポートします。

E.Oracle

11gデータベースを12c非CDBにアップグレードし、dbms_pdb.describeプロシージャを使用して、データベースを新しいPDBとしてCDBにプラグインします。

Answer: D E

QUESTION NO: 16

どの3つのRMANの永続的な設定はデータベースに設定することができますか。

A. バックアップの保存方針

B. デフォルトのバックアップ・デバイス・タイプ

C. バックアップのデフォルトのセクション・サイズ

D. バックアップのデフォルトの宛先

E. 単一のバックアップのための複数のバックアップ・デバイス・タイプ

Answer: A B D

Explanation

To simplify ongoing use of RMAN, you can set several persistent configuration settings for each target database. These settings control many aspects of RMAN behavior. For example, you can configure the backup retention policy, default destinations for backups, default backup device type, and so on. You can use the SHOW and CONFIGURE commands to view and change RMAN configurations.

References:

http://docs.oracle.com/cd/B19306_01/backup.102/b14192/setup004.htm#i1019739

QUESTION NO: 17

Flashback Data Archiveについて正しい3つのステートメントはどれですか？

(3つ選択してください。)

A. Flashback Data

Archiveが無効になっているか、最初に関連付け解除されない限り、Flashback Data Archiveが有効になっているテーブルは削除できません

B. テーブルのFlashback Data Archiveを有効にしているときに、Flashback Data Archiveに名前が指定されていない場合、デフォルトのFlashback Data Archiveを使用して有効になります

C. Flashback Data Archiveを使用するには、ユーザーはFlashback Data Archive表領域に無制限のクォータを持っている必要があります

D. フラッシュバックデータArchiveは、フラッシュバッククエリがスナップショットが古すぎるエラーを取得するのを防ぎます

E. 表に対してフラッシュバックデータアーカイブを有効にするには、データベースに対してデフォルトのフラッシュバックデータアーカイブが必要です。

Answer: A C D

QUESTION NO: 18

断片化が減少し、その依存オブジェクトではなく、売上テーブルの未使用領域を再利用したいです。この操作中に、次のことを確認します:

- i. 長時間実行されるクエリは影響を受けません。
 - ii. 余分なスペースは使用されません。
 - iii. テーブル上のデータ操作言語 (DML) 操作はプロセス中にすべての回で成功します。
 - iv. 未使用スペースは最高水位標の上下に再利用されます。
- どのALTER TABLEオプションがお勧めですか。

- A. DEALLOCATE UNUSED
- B. SHRINK SPACE CASCADE
- C. SHRINK SPACE COMPACT
- D. ROW STORE COMPRESSBASIC

Answer: C

Explanation

The COMPACT clause lets you divide the shrink segment operation into two phases. When you specify COMPACT, Oracle Database defragments the segment space and compacts the table rows but postpones the resetting of the high water mark and the deallocation of the space until a future time. This option is useful if you have long-running queries that might span the operation and attempt to read from blocks that have been reclaimed. The defragmentation and compaction results are saved to disk, so the data movement does not have to be redone during the second phase. You can reissue the SHRINK SPACE clause without the COMPACT clause during off-peak hours to complete the second phase.

References:

https://docs.oracle.com/cd/B28359_01/server.111/b28310/schema003.htm

QUESTION NO: 19

マルチテナントコンテナデータベース (CDB) 内のプラグイン可能なデータベース (PDB) としてOracle11gデータベースを移行したいです。

以下はこのタスクを達成するために可能なステップです:

1. ソース・データベースの読み取り専用モードですべてのユーザー定義表領域を配置します。
 2. 12cのバージョンにソース・データベースをアップグレードします。
 3. ターゲットコンテナデータベースに新しいPDBを作成します。
 4. EXPDPユーティリティを使用して12に設定するVERSIONパラメータを使用してソース・データベースの完全なトランスポートابل・エクスポートを実行します。
 5. 関連するデータ・ファイルをコピーし、ターゲット・データベース内の任意の場所にダンプファイルをエクスポートします。
 6. DATAPUMP_IMP_FULL_DATABASEロールを持つユーザーとして、新しいPDBデータベース上のデータ・ポンプ・インポート・ユーティリティを起動し、完全なトランスポートابل・エクスポートオプションを指定します。
 7. DBMS_PDB.SYNC_ODB機能を使用して、ターゲットコンテナデータベースのPDBを同期します。
- 必要なステップの正しい順序を識別してください。

- A. 2, 1, 3, 4, 5, 6
- B. 1, 3, 4, 5, 6, 7
- C. 1, 4, 3, 5, 6, 7
- D. 2, 1, 3, 4, 5, 6, 7
- E. 1, 5, 6, 4, 3, 2

Answer: C

Explanation

1. Create a directory in source database to store the export dump files. 2. Set the user and application tablespace in the source database as READ ONLY 3. Export the source database using expdp with parameters version=12.0, transportable=always and full=y 4. Copy the dumpfile and datafiles for tablespaces containing user /application data. 5. Create a new PDB in the destination CDB using create pluggable database command.

6. Create a directory in the destination PDB pointing to the folder containing the dump file or create a directory for dump file and move the dump file there. 7. Create an entry in tnsnames.ora for the new PDB. 8.

Import in to the target using impdp with parameters FULL=Y and TRANSPORT_DATAFILES parameters.

Make sure, the account is having IMP_FULL_DATABASE. 9. Restore the tablespaces to READ-WRITE in source database.

References:

<http://sandeepnandhadba.blogspot.pt/2014/05/migrating-from-11203-non-cdb-to-12c-pdb.html>

QUESTION NO: 20

既存のマルチテナントコンテナデータベース (CDB) にプラグブルデータベース (PDB) を作成するために使用できる3つの方法はどれですか？ (3つ選択してください)

- A. Enterprise Manager Database Expressを使用して、既存のCDBにPDBを作成します。
- B. DBMS_PDBパッケージを使用して、非CDBを既存のCDBに接続します。
- C. PDBを作成するにはPDB \$ SEEDを使用します。
- D. 既存のPDBをクローンする。

E.

DBMS_PDBパッケージを使用して、Oracleより前の12cデータベースを既存のCDBにプラグインします。

Answer: B C D